

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4390300475		
法人名	有限会社 えがお		
事業所名	グループホームえがお人吉		
所在地	熊本県人吉市西間下町1028－4		
自己評価作成日	令和6年 11月 18日	評価結果市町村報告日	令和7年 1月 16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 九州評価機構
所在地	熊本市中央区神水2丁目5番22号
訪問調査日	令和6年12月 6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

介護理念である「一期一会」の精神で一瞬一瞬を大事にケアを行っております。現在、感染症の流行により感染予防対策を講じ面会を制限しておりますが、毎月のお手紙やSNSを活用したテレビ電話など利用者様のご家族さまや馴染みの方との繋がりが途切れない様に努めております。また、季節を感じていただける様に各イベントや外気浴などを企画し、日々を楽しんでいただける様な取り組みも行っております。建物は木造平屋造りで、リビングからは中庭で洗濯物などが干してある光景が目に入り、家庭で過ごしている様な雰囲気を感じ取れる様な環境作りを行っております。また、ホームにおいて最期まで過ごしていただける様に看取りを行っており、各職員が統一したケアが出来る様にクリニカルパスを作成し、看取りについての研修も行っております。また、職員の認知症ケア向上の為に、月1回の内部研修及び外部研修へのサポートを行っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

昨年に続く外部評価の訪問でした。昨年の評価結果にもとづく課題を目標達成計画に掲げ、今年度は職員皆さんで取組まれてきた様子をうかがうことができました。一般的に地域住民や家族の高齢化も話題となる中、地域との関わりも従来より変わらず続けられており、特に災害の面では一緒になって課題を共有、対策についても話し合われています。またケア全般に代表の思いや考えが職員に浸透しており、今年度は理念の唱和だけでなく、理念の意味を添え、思いを再度職員間で共有し、理念の実現に向けたケアに臨まれた様子が聞かれました。入居者の楽しみに繋がるおやつ作りや季節の食材を使った食事・おやつの提供等にも取組む中で、入居者の以前の生活の様子が話題にのぼる等、「生活の支援」が続いている様子がうかがえました。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある			○	3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが			○	3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
		○	4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日の申し送り時に介護理念と介護目標の唱和を行い、また、毎月のカンファレンス時に介護理念の説明を必ず行っている。その理念に基づいて会社の年間目標や個人目標達成に向けて努力を行っている。	理念は代表の思いが込められており、4月の研修では理念と意思についての説明を行った。介護理念と介護目標は毎月のカンファレンスが始まる前に職員交代で、毎日日勤者の申し送り時に唱和している。今年度は特に理念についての職員への説明や共有に取組んできた。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	未だに新型コロナをはじめとする感染症の流行により以前の様に町内行事への参加は出来ていない。しかし、町内の行事や活動について情報を入手した上で、奉仕活動等に参加、協力を行っている。また、挨拶を交わす等日常的に交流出来る様に取り組んでいる。	運営推進会議や近隣からの声掛けで、事業所と地域との交流は継続的なものとなっている。地域では災害に関する懸念もあり、情報の共有や協力依頼のため、今後も声掛け等を通じていく予定にしている。	今年度は地域に馴染みのあるお祭りへの声掛けもあったようですが、時間的なこともあり入居者の参加には至らなかったようです。地域の状況もあるかと思いますが、入居者も交流できる機会作りの再開が望まれます。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	民生委員や地域からの話を傾聴し、日々実践している認知症ケアについて対応出来る様に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議について2ヶ月に1回開催し、町内会長をはじめ民生委員、家族代表、知見を有する者、行政に参加いただき、利用者についての状況や施設内での取り組みについて報告を行っている。また、施設の課題について抽出し、意見交換を行う事でサービスが向上していく様に努めている。	事業所で行う運営推進会議では事業所の取り組みや現状だけでなく、意見交換も活発に行われている。特に地域では自然災害への懸念から情報や対応の共有を行っている。市内同業事業所とは互いに管理者が運営推進会議へ参加し、課題への取り組み等の情報を交換してサービス向上へ繋げている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議や集団指導を通じて、情報交換、意見やアドバイスをいただきケアサービスに活かせる様にしており、相談や情報交換が出来る関係を築く為に日頃から連絡を取り合う様に努めている。	市役所とは日頃より情報交換や情報収集を行っている。運営推進会議等で積極的に事業所の現状や取り組みを伝えることで協力関係の構築に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	当社において身体拘束についてのマニュアルを作っており、3ヶ月毎に開催している身体拘束委員会についてケアについて協議を行っている。また、毎年全職員に対して内部研修を通じて理解及び教育を行っている。	身体拘束委員会は3ヶ月毎に開催する法人全体の取り組みであり、担当職員が参加し、毎月のカンファレンス会議を利用し職員での共有を行っている。身体拘束に関する指針(マニュアル)は委員会でも毎年見直しを行い、今年度も継続することを決定した。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止・身体拘束委員会を設置、定期的 に開催し、早期発見、発生している場合には再発防止に努めている。全職員に対して 内部研修を通じて高齢者虐待についての周知・教育を行い、防止に努めている。また、 事業所内において入浴時や更衣時に皮膚等 に異常が無いかなどの全身観察を行う様に徹底しており、もし異常があれば、直ちに 管理者や看護師へ報告を行う様にしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者や職員は、事業や制度について研修を通じて学んでいる。尚、現在施設において利用されておられる方はいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約については利用者の入所前に説明を行い、理解、納得していただいた上で契約を締結している。また、解約については本人、家族、主治医等と相談・説明・同意を得て上で行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者と家族の面会時や毎月の家族への手紙において利用者の近況を報告を行っている。その際に相談や要望、意見等について傾聴を行っている。また、運営推進会議において委員として家族代表の方には出席いただいております。外部との意見交換が出来る様に努めている。	面会での家族来訪時だけでなく、事業所からも積極的に電話等で状況報告を行い、職員へ意見を表すことができる機会作りを行っている。家族へは面会を促すことで事業所・職員との関係作りにも取り組んでいる。介護計画更新時にはケアマネジャーより家族へ丁寧に意見を聞き、事業所への意見も得ている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の申し送りや毎月のカンファレンス、リーダー会議において意見や提案を聞く機会を設け、その中で職員が情報共有出来る様に努めている。また、年に2回個別面談を行っており、職員からの意見や相談、要望について応じる事が出来る様に取り組んでいる。	職員は管理者へ日頃より意見や提案を表すことができ、管理者は職員との普段の会話や職員の体調等にも配慮し、声を掛けやすい環境作りを行っている。年2回の個別面談は管理者と1対1で行うことで個人的な意見も出ることもある。職員からの意見や提案は必要に応じ代表に伝え、文書等で管理者より職員へ周知している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は年2回の人事考課や面談の実施、カンファレンスへの参加によって現状を把握し、職場環境の整備に努めている。また、就業規則の変更や賃金・手当等の説明を文書等で周知している。		

グループホーム えがお人吉

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回の内部研修開催、外部研修への参加によって職員のケアの質が向上に繋がっていく様になっている。また、業務を通して介護人材の育成に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者は、管理者・職員がグループホームブロック会や地域ネットワーク等への参加を促し、意見交換や交流が出来る様に努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人ともしっかり面談を行い状況把握に努め、職員全員へ入所される前の状況等を伝えている。また、本人や家族の不安を受け止められる様に信頼関係を作っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族からの不安や要望は出来るだけ対応しつつ、施設や入居者様の状況を考え、対応出来る事、対応出来ない事はしっかり家族と話しながら理解していただく様に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	定期的に本人、家族、職員と意向や希望、困り事等話す機会を設けている。また、日頃の行動や言葉等しっかり観察し、問題点の中でも本人の思いを大切に職員全員で支援出来る様に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ホームでの生活をどの様に過ごしたいのか一緒に考え、今までの個々の生活環境に沿う様に心掛けています。また、生活の中でレクリエーションや家事を一緒に行う事で満足していただける様に努力しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の手紙や面会時に近況の報告を行っている。現在は感染予防対策を講じた上で面会していただき、話しやすい雰囲気を作っている。また、その際には家族の要望に耳を傾け信頼関係を築いていける様に努めている。		

グループホーム えがお人吉

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナやインフルエンザ等の感染症の流行により感染予防対策として面会の制限を行っている。その為、以前の様な対応は出来ていないが、居室内に写真を飾る等、関係が途切れない様に支援している。	コロナ禍からの感染症対策もあり、以前のように来訪や外出での関係継続の支援は難しい状況であるが、家族との関係が希薄にならないよう支援を行っている。入居者によっては家族と外出される方もおられ、行く所に行けることや家族と会えることが喜びとなっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の体調を見ながら、日中はホールで過ごしていただき、リハレクや行事等を通じて交流が出来る様に努めている。話が苦手な方に対しては職員が定期的に間に入り、利用者同士の関わりが深くなる様に対応を行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	施設を退所された後も、本人・家族への連絡や相談等を受ける事を伝え、安心していただける様な対応を行う様に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員が日頃の会話や行動の中で知り得た情報を記録・伝達し、共有している。モニタリングの中で本人、家族の意向、思いをプランの作成に活かしている。	現在の入居者は介護度は高いものの思いを伝えることができる入居者も多くおられ、職員の日頃の寄り添いや会話の中で意向を得ることも多い。家族の意向も機会ごとに確認している。事業所では「何をしたいかは本人の気持ち。無理強いはいない。」ことを共有したケアを行っており、入居者の行動や言葉で把握した情報を共有し、本人本位の暮らしができるよう支援を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人一人の生活歴や今までの暮らし方をしっかり把握し、生活環境を整え安心出来るその人らしい生活を提供出来る様に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状態変化を観察し、記録を残す必要に応じカンファレンスを実施している。職員間で情報交換、共有しながら職員本位、偏りが無い様に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者の意見も聞きながら、日々の状況を伝え、家族の意見・意向や要望を取り入れプランを作成している。	入居者担当職員を中心とした日頃の入居者への意見等に加え、他職員の意見も参考に毎月のカンファレンスにて入居者のより良い暮らしのための課題とケアについて共有・検討を行っている。評価は3ヶ月毎、モニタリングは半年毎を基本とする。介護計画作成・見直しの際は計画作成担当者より家族へ意向を確認し、現状に即した介護計画の作成を行っている。	

グループホーム えがお人吉

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録は日常生活に関する事、気づきの中からも問題点や様子など職員全員で共有出来、判りやすい記録を残す様に心掛けている。課題や対応は毎月のケアカンファの際、計画の実行状況を確認し、計画の見直しにも活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人一人に合ったサービス提供に心掛け、時にはマニュアルに離れる事があっても柔軟性を持ち、個人の希望に沿ったサービス提供が出来る様に心掛けている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域についての情報を市防災ラジオや広報誌、回覧等にて収集し、計画について把握出来る様に心掛けている。また、医療機関、行政と相談や意見交換を行い、利用者が安心安全に暮らせる様に支援を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的訪問診療、バイタルリンクを活用し状況報告や相談を行っている。状況により電話対応や往診等、夜間等の制限なくかかりつけ医との連携を図り適切な医療を提供している。	協力医は往診である。通院が必要な場合は定期受診は家族介助を基本とし、状況により職員(看護師)による通院介助を行う。医療に関する情報は、通院の付き添い等でできるだけ家族にも状況を見て頂くようにしており、付き添いができない方には、電話等で情報共有を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の申し送りやカンファレンス結果、受診報告書等で利用者の状態観察力を高め、情報収集から問題点の抽出、対応と繋げていく一連の過程を介護職と共有している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時の付き添いやサマリー、面談等で病院関係者と情報提供を行っている。入退院時の円滑な相互受け入れに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時から重症化した場合の対応や終末期における事前指定書や看取り計画について説明を行っている。救急搬送の有無やターミナル期の在り方について早い段階から家族や医師、看護師、ケアマネージャー等のチームで話し合いを重ね、安らかな最期を迎えられる様に支援している。	入居の際、職員より看取りに関する事業所の考えと担当を確認し入居者の意向も確認している。実際にその時を迎える時には、家族にとっても後悔のないよう、医師や関係機関との話し合いを重ね、入居者と家族にとってよりよい時間となるよう支援を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生マニュアルに従い、重症度や緊急性を見極め、素早くて確かな報告、対応を各関係機関へ繋げている。また、各職員が動ける様に手順の確認や対応技術の習得に努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設において年2回の防災訓練を計画・実施し、職員の防災に対する意識向上する様に取り組んでいる。また、BCPを策定・見直しを行い、非常時においても対応出来る様に努めており、地域とも情報共有を行っている。	年2回の防災訓練は火災を想定したもので、入居者も一緒に実際に外に出た訓練である。事業所は土砂災害警戒区域に指定されており、管理者から職員へ天気アプリを紹介する等、日頃から情報へのアンテナを高く持つよう共有している。豪雨災害での被災経験を持つ職員・入居者もおられ、災害への意識は高い。地域とも自然災害に関する意見交換や共有を行っている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の意思や個性を尊重しながらコミュニケーションを取り穏やかに過ごしていただく様に努めている。また、各職員が個人情報の保護にも努めている。	入居者それぞれを尊重し、理念である「一期一会」のもとその瞬間を大切にしたいケアを行っている。自立度は様々であるが、それぞれの思いや意向・希望を確認しながらケアに臨んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の自立度に合わせ情報を提供し、いくつかの選択肢の中から自ら決定していただける様に働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	居室には昔馴染みの物や写真等を置き、日中は利用者様の意向や希望を大切に、本人のニーズやペースに合わせて支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自立度に合わせて整容・おしゃれの支援、訪問理容や家族同伴による通い慣れた美容室の利用等、その人らしいおしゃれの支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者がリラックスした状態で食事に興味を持っていただける様に声掛けし、自分のペースで出来るだけ自力による摂取にて食事を楽しんでいただける様に努めている。また、お膳拭き等利用者と職員と一緒に片付け出来る機会を設けている。	今年度は主・副菜を手作りから配食へ移行した。おやつは手作りも多く、季節を感じるよう配慮している。できるだけ食事を自ら楽しみ、興味を持って頂けるよう、サツマイモを使った数種類のおやつを作り皆で楽しむ等、趣向を凝らしている。	

グループホーム えがお人吉

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日食事1,500kcal、水分1,000cc以上を目標に摂取支援を行い、一人一人の状態に合わせて、その方に合った形態で提供をする様に努めている。また、自力摂取が困難な方に対しては一部介助を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者の自立度に応じて、自力、一部または全介助を行い、義歯洗浄や磨き残しの有無の確認をしている。夜間は洗浄後に義歯を殺菌剤を使用し清潔保持に努めている。口腔物品については週に1回消毒、交換を定期的に行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日常生活チェック表やその時の状態を見て、ケアカンファレンスや申し送り時に夜間時のポータブルトイレの使用や排泄のタイミングの声かけについて検討し、実施している。	排泄の記録を参考にしながら2時間程度で声掛けを試み、入居者の意向を確認する。現在介護度も高くなり、自立は難しくなっているが、できるだけトイレでの排泄が継続するよう支援を行っている。夜間ポータブルトイレを利用する入居者も増えたため、臭いや汚れに気遣い、掃除をこまめにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日常生活チェック表での食事・水分摂取量を把握し、腹部マッサージや乳製品の摂取を実施している。それでも困難な方においては医師に相談し、指示の下で薬物療法を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴者は午後からのバイタル測定を実施し、本人の体調や希望を考慮しながら入浴支援を行っている。また、入浴を楽しんでもらう為に香りが良い入浴剤を入れたり、1対1で会話を楽しむ雰囲気を作っている。	週2回の入浴を基本とし、希望があれば別日にも対応する。浴槽に入ることが難しい入居者はシャワー浴となるが、足湯を用いながら心地よい入浴時間となるよう工夫している。それぞれの持つ力を大切にし、過度な介助は行っていない。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者一人一人の体調や希望に合わせて午前、午後関係なく休息したり、安心して眠れる様に支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人の使用している薬の目的、副作用、用法、用量について職員全員がケアカンファレンスや服薬一覧表等を通じて理解し、服薬の支援を行っている。また服薬される際には誤薬が起きない様に細心の注意を払っている。		

グループホーム えがお人吉

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の中で気分や体調を考慮し、張り合いや喜びがある様にお膳拭き等の協力による役割支援、行事・外気浴を行う事による気分転換や楽しみ事に支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナ等感染症の流行により日常的な外出は出来ていないが、天候や体調を見ながら外気浴等の外出が出来る様に努めている。また、感染予防対策を講じた上で家族や職員との外出支援も行っている。	コロナ禍以降の感染症対策、また入居者の高齢化や介護度が高くなったこともあり、ドライブや計画による外出は予定しても実現が難しい状況であるが、周辺の散歩は日常的なものである。時にはテラスでおやつの時間を過ごす等、自然を感じる時間の提供を行っている。数か月ごとではあるが、通院や外出等、家族と外出される方もおられる。	日常的な散歩やテラスを利用した外気浴等、生活の中での取組みがありました。入居者の意向もありますので無理強いすることはできませんが、風や空気の季節を感じる取組みの継続に期待します。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族に理解していただいた上で生活諸費や受診代等に使用の為に預り金を施設において管理しているが、利用者からの要望がある時は家族へ確認・許可を得て購入出来る様に支援している。また、利用者も買い物に同行出来る様な支援も行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人による希望がある時には電話出来る様に支援を行っており、時にはテレビ電話による顔を見て話せる様な支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室温や湿度には注意をし、利用者が不快に思わない様に声掛けの方法や音には配慮を行っている。また、季節を感じられる様に花を飾ったり、壁には飾りつけを行う等の工夫を行っている。	歩行器や車椅子利用の入居者も安全に移動できるよう整えている。今年度はリビングからトイレに繋がる廊下の温度管理にも配慮した。食事の後は車椅子利用の入居者もソファに移し、職員と談笑の姿も見られた。思い思いに本を読んだり、お喋りが好きな入居者には職員からも声を掛ける等、入居者の笑顔も見られる共用空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	本人の希望を尊重し、ホールや居室で過ごしやすい様に支援を行い、時には利用者同士が楽しく話せる様な空間作りを行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の希望を尊重し、使い慣れた物や馴染みの物を活かし、家族にも協力していただき本人が心地よく過ごせる様な居室作りを行っている。	入居時に使い慣れた生活用品の持ち込みを家族へも依頼し、心地よく過ごせるような工夫をしている。昼間はポータブルトイレを脇に寄せる等、居室入り口からの視線にも配慮している。	

グループホーム えがお人吉

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行時や車イス使用時でも安全に過ごせる様に障害物を取り除き広さを確保する様に努め、環境づくりを行っている。		

2 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホームえがお人吉
作成日 令和 7年 1月 16日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	249	入居者の計画的外出、交流出来る機会作りが不十分である。	入居者の計画的外出の実施及び支援	1. 日常的な散歩や外気浴の継続実施する。 2. 地域行事への入居者の参加支援を実施する。 3. 入居者が季節を感じる事が出来る計画的外出を実施する。	6ヶ月
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。

